



人間牧場主・年輪塾々長
若松 進一

スポーツと

地域づくり

私は昭和46年から58年までの13年間、旧双海町（現伊予市）の教育委員会に勤務し、社会教育を担当しました。当時の社会教育は文化も体育も包含した大雑把な時代でしたから、田舎の町には文化協会も体育協会もなく、社会教育担当者はオールラウンドプレーヤーとして全てをやらねばならず、超多忙であっても意気に燃えて、住民の先頭に立って誘導していました。



第1回双海トライアスロンスタート！

第1回双海トライアスロンスタート！

それは、種目別のアマチュアスポーツ団体や青少年の健全育成を目的としたスポーツ少年団といったチャンピオンスポーツが誕生し、また文部省や日本体育協会などの指導もあって、それらを包含した総合型地域スポーツクラブ育成へと誘導していったようです。

何年前か前いただいた総合型地域スポーツクラブ育成マニュアルが

どはコミュニティスポーツで、バレーボール、ソフトボール、駅伝、町民体育祭は町内4大会として位置づけられ、選手に選ばれた人は地域の代表としての誇りを持ち、忙しい仕事の合間を縫って、体育館や夜間照明のついた学校運動場で、何日も練習し、大会当日は多くの地区住民が応援に駆けつけ、勝った地区は祝勝、負けた地区は慰労会と称した呑み会で地域の融和を図り、勝ったチームは管内大会、県大会へとコマを進め、小さな甲子園を目指したものでした。それらの成果は公民館の壁に飾られセピア色に変色した表彰状のみが往時を忍ばせているのです。

- その後体育協会が設立され、種目別のアマチュアスポーツ団体や青少年の健全育成を目的としたスポーツ少年団といったチャンピオンスポーツが誕生し、また文部省や日本体育協会などの指導もあって、それらを包含した総合型地域スポーツクラブ育成へと誘導していったようです。
- 何年前か前いただいた総合型地域スポーツクラブ育成マニュアルが
- 手元に残っています。そのパンフレットには次のようなことが書かれていました。
- ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
- 「総合型」とは3つの多様性を包含しています。一つは種目の多様性、二つ目は世代や年齢の多様性、三つ目は記述レベルの多様性です。総合型地域スポーツクラブは、こうした多様性を持ち、日常的に活動の拠点となる施設を中心に、会員である地域住民個々のニーズに応じた活動が、質の高い指導者のもとに行なえるスポーツクラブですが、その特徴を挙げると次のようになります。
- ①単一のスポーツ種目だけでなく、複数の種目が用意されている。
 - ②障害者を含み子どもからお年寄りまで、また初心者からトップレベルの競技者まで、そして楽しみ志向の人から競技志向の人まで、地域住民の皆さんの誰もが集い、それぞれがの年齢、興味・関心、体力、技術・技能、レベルなどにおいて活動できる。
 - ③活動拠点となるスポーツ施設を持ち、定期的・継続的なスポーツ活動を行うことができる。
 - ④質の高い指導者がいて、個々のスポーツのスポーツニーズに応じた指導が行なわれている。
 - ⑤スポーツ活動だけでなく、できれば文化

的活動も準備されている。

総合型地域スポーツクラブの主役は「地域」の住民の皆さんです。すなわち、「地域」の皆さんが各地域でそれぞれ育み、発展させてゆくのが総合型地域スポーツクラブです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

育成マニュアルの随所に書かれている「地域」とか「地域住民」といった文字を見る限り、私が30年前から40年前にかけて社会教育の現場で関わった公民館活動を主体にしたスポーツ活動と、何ら変わりがないと思うばかりか、むしろ現在のスポーツ活動は地域や地域住民から離れた場所で行われているような気がしてならず、残念ながらスポーツによる地域づくりの普及発展は、まだまだ先のようにだと実感せざるを得ないのです。

平成24年の夏、私たちの町では鉄人レースといわれる第一回トライアスロン大会が開かれました。トライアスロンといえば20年を超える歴史を持った旧中島町（現松山市）が県内では余りにも有名ですが、愛南町と伊予市双海町が遅まきながら名乗りを上げました。200人の参加者の内、町内出身者は僅か3人でしたが、600人を超える町内ボランティアスタッフに加え、一目見ようと会場となったふたみシーサイド公園や沿道に集まった応援者は多くて、

数え切れないほどの盛り上がりを見せ、スポーツをテーマにした地域づくりが初々しく第一歩を踏み出しました。

私たちの町では夕日をテーマにした、下灘駅夕焼けプラットホームコンサートという文化的イベントも、青年たちの手によって既にすっかり定着しており、顔ぶれの違った交流人口が益々増えようとしていることは喜ばしい限りです。

県内に野球やサッカーのプロクラブが誕生し、愛媛マラソンも県民マラソンとしてすっかり定着してきました。街中ではジョギングをしたりウォーキングやサイクリングを楽しむ人の姿を沢山見かけるようになりました。また縁遠かったゴルフを隣のおじさんまで熱中しています。沢山の体育館や運動公園も土日には色々な大会が開かれ、家族やグループがそれにつられて右往左往しています。昨日今日のの流れはそんなに変わったとは感じませんが、30年・40年前と比較すると、スポーツを巡る世の中は明らかに大きく変わっています。しかし、ここでもスポーツイベントにしるスポーツの広がりにしろ、地域づくりとスポーツの関係が曖昧で、満足の行くものではないのです。

人間は健康で長生きがしたいという願望を殆どの方が持っていますが、「スポーツクラブが地域に貢献できるか」という問いかけには、むしろ「健康や体験、交流を通じて交流人口を増やし、経済効果を高め

る」といったことに重きが置かれているように、地域課題を解決したり地域を元気にするという、地域づくりの本質を忘れないように導きたいものです。



第1回双海トライアスロン応援風景

スポーツで 儲けてやろうと 皮算用
投資はしたが 当てが外れて
スポーツは 応援だけでも 元氣付く
これも効果と 思えば効果
コミュニケーション 目的スポーツ 人数が
揃わず次第 追々細る
交流で 糞と小便 ゴミだけじゃ
余りに惨め 心してやれ
(若松進一 笑売啖呵より)